市政のここが聞きたい

第4回定例会の一般質問は、12月5日～9日の5日間にわたり行われ、21名の議員が当面する市政運営について市長の姿勢や考え方を質問しました。主な内容は次の通りです。

日本共産党

給食の放射能検査の実施を！

永田　議員

質問　高齢化率の高い上の原地域を、医療施設の空白地域にしないための調整は。

答弁　都再生機構では、公益的施設の整備の中で医療施設の更新を検討していく、とのこと。市としても協議・調整していく。

質問　正規調理員が足りている中で、小学校給食調理の民間委託による財政効果はないと考えるが、見解は。

答弁　直ちに財政効果は出ないが、安定的な調理体制を確保するため、今後も調理業務委託は検討を進める。

質問　規制値を超えた食材が流通した中、学校給食食材の放射能測定を求める。

答弁　流通している食材は、生産地等で放射能測定を行い規制値をクリアしているものと判断しており、市独自の測定は考えていない。

教育長　食材の品数や調理現場ということから、現実的には対応は難しい。国民生活の安全確保のための検査は必要と思うが、その仕組みは、国で確立していただきたいと考える。

市長は市民との約束を守れ

村山　議員

質問　コミュニティバス実現の取り組みについて、市長の態度変更とその理由は。

市長　庁内検討委員会から近隣市での導入の経緯や実態について現地報告を受け、多額の一般財源の支出を伴う事業であり、市の財政再建を考え、任期中の着手は難しい、との結論に至った。

質問　第九小の火災の原因と再発防止の取り組みは。

答弁　体育館耐震補強工事請負業者の現場事務所でのたばこの不始末が原因である。今後は、他の学校も含め工事区域内全てで喫煙は一切禁止とし、事故発生防止の徹底を文書で通知した。

質問　イオンSC建設に伴う10月3日の住民説明会への市の対応は。

答弁　説明会は事業者の責務である。説明会後、事業者から報告を受けている。周辺住民から市に対し、再度の説明会を求める要望書が出された。これを受け、事業者には再度説明を行うよう要請するとともに、条例を順守するよう通知した。

特別支援学級の環境整備促進を

篠原　議員

質問　第5期介護保険事業計画について、①要支援の方のサービス利用に制約が生じる日常生活支援総合事業を実施しないこと、②特別養護老人ホームの整備促進、③保険料抑制のための多段階化と準備基金取り崩しを求める。

答弁　①新たな事業であり、実施方法等を総合的に検討。②上の原地区へ、平成27年2月ごろの開設をめどに関係機関と調整中。③適正な保険財政運営を基本に、低所得者の負担が過重にならないよう検討している。

質問　障がい者福祉について、①活動センターかなえの施設整備、②かるがもの支援は。

市長　①移転は喫緊の問題であり、解決に向け努力する。②都補助金の継続を要望し、動向を見守りたい。

質問　特別支援学級環境整備計画の進捗状況は。

答弁　25年度に、南町小に固定学級を2学級、第六小に通級指導学級を4学級開設の予定で準備している。

市長は、本当に民営化強行するのか？

原　議員

質問　みなみ保育園の廃園・民設民営化に関し、①市民説明会開催の考えは、②民営化説明会での配布資料と法人公募要領の違いは訂正したのか。

市長　①日程的には難しい。しかし、保育について、何らかの形で市民に説明する機会は検討したい。

答弁　②修正した部分もあるが、法人募集の説明会で説明しており、法人選定委員会の中で確認していく。

質問　住み慣れた地域に障がい者の生活寮を増やしていく考えは。

答弁　第2期障害福祉計画の数値目標は、ほぼ達成しているが、今後、家族の高齢化に伴い、入居希望の増加が予想され、それも含めた目標値を設定していく。

質問　特別支援教育について、中学校難聴学級の検討状況とスケジュールは。

答弁　特別支援学級設置検討会を設置し、現在検討している。26年度に中学校への進学予定があることを念頭に計画を立てていきたい。

図書館のサービス向上・経費節減を

富田　議員

質問　図書館の管理運営について、①地区館の民間委託の今後のスケジュールは、②2つの地区館に指定管理者制度を試行中の立川市では、直営時と比べ、開館時間を2時間延長、開館日数は年間33日の増加、貸出冊数も増え、利用者アンケートでも高評価を得ている。何より、運営費が年間1300万円も削減され、まさに経費削減とサービス向上が両立するモデルケースだ。このような指定管理者制度導入に対し、見解は。

答弁　①市立図書館のあり方検討委員会で検討を進めており、今年度末までに報告書をまとめる。②アウトソーシングを導入する際の一つの方法と捉えている。

質問　入札改革について、コスト削減効果のあるリバースオークション（競り下げ方式）を八王子市が試験的に導入した。以前にも提案しているが、わが市でも検討すべきでは。

答弁　八王子市より資料を取り寄せ、調査・研究する。

持続可能な未来へ今すべきこと

梶井　議員

質問　退院した高齢者が住み慣れた自宅で生活できるよう、在宅療養支援の拡充が課題だが、①市の取り組み、②市外の医療機関との連携、③第5期介護保険事業計画での対応は。

答弁　①ケアマネの連絡会議を定期的に開催。②市外病院との連携を支援。③ケアマネ等の研修の充実を計画に入れていきたい。

質問　行財政改革について、①24年度予算の財源不足額は、②地域手当が10％となったが、アクションプランの9％との差額への対応は、③財源不足を解消するため、積立金や借金返済などに財政目標が必要では。

答弁　①現時点で約19億6千万円。②人件費総体で対応。③総体的に検討すべき課題と認識。

質問　①地域手当の今後の方針、②財政再建に向けた工程表を提出すべきでは。

市長　①国基準の6％を目標に協議していく。②当初予算の資料等で理解を得られるよう工夫する。

社会民主市民連合

卸売市場の活性化どう取り組む!?

桜木　議員

質問　「新たな産業のあり方報告書」が提出されたが今後、下里、滝山地域は。

答弁　下里の東久留米卸売市場については、地域経済活性化のため以前から関係者と話し合いをしており、今後もこれまでの経過を尊重しながら対応を図りたい。

質問　警察庁は自転車の車道通行方針を通達した。高齢者の事故が多い、市として総合安全対策の考えは。

答弁　危険な道路の改良・駐輪場の確保等の要望を受け、法令等の改正を勘案しながら、東久留米市交通安全計画の中で対策を推進したい。

質問　白山公園について、①歩道橋の耐震は大丈夫か、②施設の整備と防災ベンチや老朽化したガードレールの対応は。

答弁　①新潟地震を反映した道路橋耐震設計指針に基づく設計と認識。②関係部と協定を結び、暫定的な有効利用に努力している。ベンチ等については、調査・検討する。

誰もが安心して学べる環境を

間宮　議員

質問　日本語によるコミュニケーションが困難な外国人児童・生徒への支援について、①制度の柔軟な対応を求める、②市民団体の協力を得るなどの考えは。

答弁　①実態に合わせ、時間や回数は柔軟に対応していく。②教育委員会としてできることがあれば協力していく。

質問　六仙公園について、①南沢湧水群、向山緑地との連携は、②都市計画道路東3・4・18号線の検討は。

答弁　①緑の基本計画で、周辺の緑地を保全しながら自然との触れ合いの場を創出するとしている。②平成28年までの整備区間であり、緑地とのつながりも配慮しつつ整備を要望していく。

質問　次期の介護保険事業計画（素案）に関し、保険料・利用料など、市民への丁寧な説明を求める。

答弁　12月15日から、事業計画（素案）を公表し、パブリックコメントを募集し、2月上旬に住民説明会を予定している。

「地域防災と絆づくり」をテーマに、市内7カ所でタウンミーティングが開かれました（＝11月26日、大門中学校体育館）

会派クレド

馬場市長に将来を任せられるか

宮川　議員

質問　長引く不況と大震災で将来に希望を持てない若者が増えている。こんな時代に生まれて損をしたと思う人もいるかもしれない。今この時代に生きていること、それは時代に必要とされているということ。希望を捨てず、夢を諦めず、自分たちの時代を築いてほしい。若者の雇用対策について、市の取り組みは。

答弁　昨年度に続き就労支援事業を今年度も進めたい。

質問　24年度予算の財源不足額は現時点でいくらか。

答弁　約19億6千万円。

質問　保育園民営化について、市長の考えは選挙前と後でどう変わったのか。

市長　あり方検討委員会を設置し市民参加で検討するとの表明していたが、そもそも民営化に関しては賛成とも反対とも表明していない。

質問　市長はイオン公約違反の責任をどうとるのか。

市長　事業者・関係機関と協議を進め、地域に貢献できる施設となるよう精力的に取り組む。

一般質問

市民クラブ

図書館行政に「ユネスコ公共図書館宣言」の精神を

白石　議員

質問　男女平等施策について、①事業進捗状況評価への対応、②推進センターの役割と女性団体のネットワークづくり、③雇用・労働問題への取り組み、④防災に女性の視点を求める。

答弁　①さまざまな指摘を受けており、施策に反映を図る。市内事業者への働き掛け等は計画的かつ具体的に取り組む。②共同参画意識を養う環境づくりに努める。交流会等については検討したい。③とう進めるか、市民会議委員と協議・調整して進めたい。④必要性は認識。意識啓発に努める。

質問　図書館行政に指定管理者制度を導入する理由は。

答弁　民間事業者のノウハウを活用することで、効率的な運営ができると考える。

質問　柳窪地域の歴史的景観と文化財の保存について市の考えは。

答弁　地域団体等が主催する特別見学会などで、市民意識の啓発を図っている。

市長　教育委員会と協力して努力していく。

みんなの党

更なる職員人件費の削減を求める！

佐藤　議員

質問　市財政について、①24年度予算の編成状況は、②地域手当が行革プランで示した9％ではなく10％となったことへの対応は。

答弁　①予算要求締め切り時の歳出超過額は19億6千万円で、これまでにない厳しい予算編成である。②4千100万円の差が出るが、人件費総体の中で対応したい。

質問　今回のタウンミーティングの参加者が少なかった原因は。

市長　テーマとした防災に関してしか意見が言えないと考え、参加しないという意見が多かった。また、広報で一回という周知の方法も原因との指摘も頂いた。

質問　中央図書館集会室を学習室として開放する取り組みの通年化や、他の施設に広げる考えは。

答弁　図書館は貸し出しを中心とした施設であり、今後も引き続き長期の夏休みの時期などに開放していきたい。他の利用団体もあり、どのようにするのが最良の方法なのか研究したい。

三民クラブ

安全・安心な地域づくりに向けて

小山　議員

質問　防災対策に関して、①地域防災の組織化の取り組み状況は、②全庁横断的な組織が必要では。

答弁　①地域の防災力強化は重要であり、自主防災組織の育成と支援に努める。

市長　②担当課だけでは難しい状況がある。今後の組織改正に向けて考える。

質問　環境保全に関して、①緑の保全に周辺住民等も連携できる仕組みづくりを、②公園の管理に地域の方の協力を頂く考えは。

答弁　①東京都、自然ふれあいボランティア、地域住民と調整していきたい。②住民の声を生かして、良い公園づくりを行いたい。

質問　介護サービス情報の提供に関して、①利用者に分かりやすいことが重要。『事業者ガイドブック』を改善する考えは、②高齢者の安心を支えるために、一層の努力を。

答弁　①工夫すべき余地がある。②利用者が必要なサービスを選択できる環境を整えていきたい。

放射能対策の取り組みを真剣に！

細谷　議員

質問　放射能汚染に関して、①国の具体策が必要と考えるが市の対応は、②被災こまの受け入れについて、市長会の対応は。

答弁　①国に対しては、情報を整理し、知見を発信して、無用な不安が広がる状況の解決を求めたい。

市長　②第一義的に国が責任を負うべきとの共通認識を持っている。市長会として、統一的な対応のための基準や方法、経費の持ち方等、国に求めていく。

質問　中央町御成橋周辺の都市計画道路東3・4・19号線の開通時期と安全対策は。

答弁　平成24年4月から暫定開放可能と考えている。また、接続する市道224号線の危険箇所は路面標示等により改良していく。

質問　くぬぎ児童館の今後について、方向性とスケジュール、見解は。

市長　市民懇談会報告書の考え方を尊重し、同一場所での建て替えや補強工事ではなく、北部地域への移転が望ましいと考えている。

迷走・馬場市長の政治姿勢をただす

野島　議員

質問　市長たる者は、しっかりとした立ち位置を決め、ぶれない市政運営を行うべきである。下水道条例改正案について、議案説明時と提出時で内容が変わった。熟慮に熟慮を重ねたとのことだが、市民検討委員会の判断にもかかわらず、変更に至ったその熟慮とは。

市長　減免規定見直しにより、これまで負担がなかった方々に使用料が発生することについて、一定の配慮が必要との思いで判断したものである。

質問　市長選挙で推薦を受けた会派から提出され、全員賛成で可決された「猛省を求める決議」について、「市長の議会対応は真摯さと誠実さに欠ける」、「市長としての自覚と責任を問い、猛省を求める」との指摘をどう考えるか。

市長　決議をしっかりと受け止め、真摯に反省すべきところは反省し、改めるべきところは果たして、議会との信頼関係を築くべく最大限努力する。

変化をチャンスに

並木　議員

質問　スポーツ施設に関して、①白山公園の今後の整備について、②不動橋広場の屋外グラウンド機能は残せるか、③第四小学校の閉校後の校庭開放は。

答弁　①新たな施設整備は厳しい財政状況等から難しいが、活用できる既存施設については工夫し、整備の検討は関係部署と協議を含め努力していきたい。②東京都の施設については、都へ要望し、実現に向けて努力したい。③市民のスポーツの場を維持できるよう関係部署と協議していく。

質問　上の原地区への新たな企業等誘導には、多くの期待、さまざまな声がある。多くの意見を取り込み、よりよい方向に導いてほしいが、見解は。

答弁　税収確保、雇用創出、地域経済の活性化に期待するが、実現にはいろいろなハードルがあると認識。地権者である国や都市再生機構の意見・意向も踏まえ、成功に向けて全力で取り組む。

3600名を超える方がウオーキングを楽しみました（＝1月14日、2012開運東久留米七福神めぐり）

公明党

市政も企業と同じ危機感を！

三浦　議員

質問　3・11大震災の震度は、近隣市は全て5弱との発表。なぜ、わが市だけ4だったのか。震度計の信頼性を確認すべきではないか。

答弁　本市の震度計は、震度計設置環境基準に基づき、本庁舎地下に設置。気象庁の検査で基準に適合すると の結果を受け、毎年、保守点検を実施し運用している。

質問　不燃ごみに含まれる小型家電を分別、売却し、ごみを削減するとともに、市の収入にできないか。

答弁　イベントでの回収等、他団体の状況を把握し、今後の研究課題としたい。

質問　ウォーキング事業のマップを活用し、地域商店への集客や農産物の販売促進へつなげる施策の考えは。

答弁　毎年1月の七福神めぐりでは、地場産野菜や特産品の販売、市内商店のPR等を実施。ウォーキング事業は健康増進を目的としているが、農・商・工との連携について、PRパンフレット等、今後検討したい。

支えあう地域社会へ！

関根　議員

質問　放置された空き家がもたらす衛生・防災・防犯等のトラブルが社会問題化している。条例で対応している市もあるが、見解は。

市長　苦情や相談については、各所管課で一定の対応をしている。周辺環境に対する影響が大きい状況は認識しているが、現時点で条例には視野にない。今後とも、研究していきたい。

質問　防災対策や高齢者の見守りなど、自治会のさまざまな効果が見直されている。市民に知ってもらい、自治会を増やすための取り組みは。

答弁　設立を促し加入世帯を増やすための「加入の手引き」等のパンフレットの作成、配布、先進自治会の紹介や人材育成のための講演会等を実施している。

質問　教育相談について、市内在住の高校生を対象とする考えは。

答弁　現在、市内在住、在学の幼児から中学生までを相談対象としている。滝山相談室の移転等、今後の状況を見つつ検討したい。

「女性の視点」を生かした防災対策を

阿部　議員

質問　防災対策に関し、①避難所運営計画はフライパシーの確保や女性の立場、視点等を盛り込んで策定されているのか、②災害時要援護者登録者数は、③登録名簿を今後の個別計画策定にどのように活用するのか。

答弁　①東京都福祉保健局や内閣府が示す「ガイドライン」等を踏まえ、避難所運営マニュアルを策定。②平成23年12月1日現在2093名である。③自治会、自主防災組織、民生・児童委員等の関係機関での活用が考えられる。

質問　図書館の開館時間延長に早期に取り組むべき。

答弁　平成24年1月からの実施を目指し、関係団体との協議を進めている。

質問　文字を読むことに困難のある児童・生徒の学習意欲を高める方途として、特別支援学級等にデジタル教科書の導入を提案するが。

答弁　学習支援の教材として効果の見込める児童・生徒の利用について、学校へ紹介し、啓発していく。

市長は、度重なる公約違反の責任を明確に

津田　議員

質問　馬場市長の公約である「情報公開、市民参加、市民との対話による合意形成」は、野崎前市政と何が違うのか。

市長　前市政の政策全てに反対してきたわけではなく、政策決定のプロセスに異議を唱え、結果として反対の立場をとってきた。前市政のさまざまな取り組みは評価できると考えている。

質問　みなみ保育園について、市民を対象とした説明会を保護者から要望がずっとあったにもかかわらず、一貫して行わないと答弁してきた。なぜ9月30日に市民説明会を行ったのか。

答弁　最も影響を受けるみなみ保育園の保護者の方と話す場を設けることが最優先と考えていたが、どなたにも二出席いただけない状況が続いた。これから入所予定の保護者や近隣の方々へ説明を聞きたい人もいるとの意見・要望を踏まえ、なるべく保護者の方も出席しやすい状況を整えることが重要と考えたためである。

喫緊の課題に機敏に反応せよ

沢田　議員

質問　学校における放射能教育の必要性について伺う。

答弁　各段階に応じて、放射能等について学び、自ら考え、判断する力を育むことが重要と考える。文部科学省作成の副読本を全児童・生徒に配布し活用していく。

質問　道路交通法における自転車通行の警察庁通達と本市の対応は。

答弁　通達の指針をもとに、田無警察署とともにルールやマナーの啓発活動に努め、自転車を取り巻く交通行政の変化を注視し、総合的な安全対策を進めていきたい。

質問　「東久留米市の財政分析～平成22年度決算で見る現状と課題」の結果から、今後の市経営の考えは。

市長　高齢化の進行により個人市民税の減少等、厳しい行財政運営が続くと考える。行政と民間の守備範囲を明確にし、行政が担うべき役割の重点化をどう進めていくかなどの課題に、予断を持つことなく向かっていく必要がある。